

体験活動に係る実践事例



推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

- ヤギとの関わりをもつ中で児童が感じた疑問や思ったことを学校担当獣医師に尋ねたり、伝えたりする活動に取り組みました。

また、教員と児童が共に世話や触れ合い活動をする中で、ヤギも児童も安心して触れ合える方法について教えていただいたり、獣医師の仕事、ヤギ以外の動物についての話もしていただいたりすることで、生命の尊さや動物愛護についての理解が深まりました。



低学年の飼育動物との触れ合い



ヤギの飼育について委員会での話し合い

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 事前に担当教員と学校担当獣医師とで打ち合わせを行いました。その際に、児童の疑問や飼育活動を行う中で不安なことを事前に伝えておくことで、児童に適切な言葉掛けをすることができました。

【児童の反応】

- 第1、2学年とも動物が苦手な児童がいますが、学校担当獣医師を通じた触れ合い体験を行うことで怖がらずに接することができるようになってきました。
- 学校担当獣医師との触れ合い体験の学習を通し、動物をよく観察することで気持ちが分かるようになることを学びました。また、動物と仲良くなるには、動物の気持ちを考えてお世話することが大切であることを学び、生命を大切にすることの重要性に気付くことができました。
- 学校担当獣医師から「お別れが近いかもしれない」と専門的な見地からヤギの体調について診断していただき、ヤギの最期に当たっては、寝床や給餌、給水、体温の保持について助言をいただきました。専門家である獣医師に来校してもらい、ヤギの様子を確認していただいたことも心強かったです。



世田谷区立太子堂小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師から第1、2学年を中心に、ウサギの飼育や他の動物への関心が高まるよう指導や助言をしていただきました。
- オンライン授業でウサギ等の動物の画像や動画、院内にある資料等を使用していただき、具体的に視覚的にも分かりやすく学習を進めることができました。



オンラインによる獣医師との連携授業

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師からウサギの生態や習性など、オンライン授業を通して、図解や動画を活用しながら詳しく教えていただきました。
- 各クラス、別々の獣医師によるオンライン授業だったので、ウサギの他にも、イヌやハムスター、小鳥といった、獣医師のそれぞれの専門分野を生かした授業がとても興味深いものでした。
- 生活科と国語科を横断した学習内容であり、児童の興味関心を幅広く網羅した内容であったことから、児童の学びは深いものになりました。

【児童の反応】

- ウサギの観察を兼ねて、触れ合い体験をしました。ウサギを怖がらせないように気を付けたり優しく触れようとしていたりする姿が見られ、学んだことをすぐに実践に生かし、命の大切さについて理解を深めました。
- 児童は動物に対して興味や親しみをもつようになり、その後の学習では自主的に動物について調べたりまとめたりする姿が見られました。



中野区立白桜小学校

【実践の概要】

- 第2学年は7月下旬から、毎日飼育小屋から教室にモルモットを連れて行き、教室でお世話をを行います。2月下旬から、第1学年に引き継ぎます。
- 第5学年、第6学年が学校担当獣医師から、モルモットやチャボの生態や特徴、飼育環境や衛生指導、モルモットやチャボが安心できる抱き方などの話を伺いました。
- 学校担当獣医師が持参した心音機を使って、モルモットの心臓の音を聞きました。



はじめはうまく抱えることができませんでした！

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 生活科の学習において、学校担当獣医師より適切なすみかや、餌について助言をいただきました。
- 学校担当獣医師の御指導のもと、実際に児童一人一人がモルモットを抱っこし、体験的に学ぶことができました。
- 動物アレルギーのある児童については、遠くから動物を観察したり、ICT を活用して映像を見せたりと、授業の参加形態を工夫しました。



モルモットの抱き方の指導

【児童の反応】

- 毎日観察日誌をつけ、モルモットの体調や様子に気を付けながらお世話をすることができました。
- モルモットの適切な抱っこの仕方を知り、怖がらずにモルモットを抱っこできる児童が増えました。
- 毎日お世話をしていく上で、モルモットの気持ちを考えて行動できるようになりました。



青梅市立第七小学校

【実践の概要】

- ウサギの心音と自分の心音を聴き比べることで、「命」を感じる授業を実践していただきました。



ウサギの心音を聴診器で聴く児童

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学級担任が指導案を作成し、推進事業担当教員と管理職、学校担当獣医師で指導案検討を実施しました。
- 授業を実施するに当たって、学級に動物アレルギーの児童の有無を確認したり、授業後に皮膚などに異常が無いかの確認をしたりするなど、家庭との連携を図りました。

【児童の反応】

- 初めて聴く、自分の心臓の音、動物の心臓の音に感動していました。ウサギの心音を聴くことで、ウサギが活着ていることを実感することができる貴重な体験をしました。また、獣医師が実際に使用している聴診器に触れることができ満足感も味わうことができました。
- 国語科の「動物園の獣医」の学習とも繋がる内容となりました。



青梅市立新町小学校

【実践の概要】

- 第1学年、第2学年の生活科の授業で生き物について学習し「生命あるものを大切にする」気持ちを育てました。
- 学校で飼育しているウサギについて学校担当獣医師に教えてもらい、親しみをもって接することができるようになりました。



初めてウサギを抱っこしたよ

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師をゲストティーチャーに迎え、疑問に思ったことを質問したり、ウサギについて説明してもらったりしました。
- 学校担当獣医師のアドバイスを受けて、一人ずつウサギを抱きました。
- 学校担当獣医師に心音機を持ってきていただき、人間とウサギの心音を聞かせてもらいました。

【児童の反応】

- 学校で飼育しているウサギに関心をもち、優しくしようとする気持ちをもつことができました。
- ウサギの好きな食べ物や食べさせてはいけないものを知ること、餌をやってみたいなどウサギと直接関わりたいという思いをもちました。
- 人間とウサギの心音を聞かせてもらい、生き物の命を実感することができました。
- 学校担当獣医師の実演を見て、ウサギの正しい抱き方を知ること、怖がらずにウサギを抱ける児童が増えました。